

科目番号	66	科目名	コミュニティ論	
英文科目名	Local Community Studies			
大学・短期大学名	龍谷		大学	
連絡先	滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5			
	TEL :	077-543-7739	FAX :	077-543-7674
担当教員	坂本 清彦 ( 社会 学部 准教授(特任) )			
実施方法	対面授業	遠隔授業	対面・遠隔併用	
教室名		会場	瀬田	
授業期間	2023 年 9 月 19 日 ( 火 ) ~ 2024 年 1 月 9 日 ( 火 ) <毎週 火 曜日> 4 時限・講時 15 : 15 ~ 16 : 45			
超過時の選考方法	書類選考			
成績評価方法	定期試験 ( 筆記 )			%
	レポート試験 ( 期末 )		50	%
	平常点 ( 出席・授業態度 )		50	%
	その他 ( )			%
	自由記載			%
別途負担費用	( なし )		あり ( ) 円	
その他特記事項	<p>【授業外学習(自主学習(事前・事後学習を含む))の指示】 学期を通じて文献を読み、リフレクションノートに記入してもらいます。 また、レポートのための文献探索やインタビュー調査も必要となる場合もあります。</p> <p>【履修上の注意・担当者からの一言】 【受講者をお願いしたいこと】 オンライン+対面という変わった形式です。特に対面授業日の日程に注意してください。対面授業日のグループワークに参加できない場合は、追加の課題を課すことがあります。</p> <p>「コミュニティ」という概念は多様で奥行きも深く、理解するのは容易ではありませんが、大学らしい挑戦的な学びを体験したい人にはお勧めです(難しいとはいえ、きちんと授業に参加してくれたら、単位はとれます)。</p>			

その他特記事項

この授業は1回生から4回生まで、そして他学科・他学部・(京都と滋賀の)他大学の学生にも開放していますから、背景、関心、知識、理解度が異なる多様な受講生が集まり、さらにアシスタント、ボランティア、ゲストも加わります。  
それゆえに、講義を聞いて1人だけで学ぶのではなく、わかったこと、わからないことを共有し、参加者がお互いに補い合って、他の受講生や授業参加者との協働を通じ、積極的に学ぶ場(それこそコミュニティ)としての授業を一緒に創り上げながら理解を進めます。

そして、1つ、皆さんにお願いしたい(いや、約束してほしい)ことがあります。

それは、わからないことや困ったことがあったら、教員、アシスタントやボランティアに相談してください、ということです。

この授業は、オンラインを基本としながら対面も取り入れる「実験的」なこともやるので、授業の内容だけでなく、授業の進め方について不明、不安なことがあれば、「こんなことを訊いていいのか？」などと思わず質問してください。

ということで、「わからなかったら質問する」と約束してください。

【授業内容の変更について】

講義内容やレポートを含む課題、授業の進め方については、社会情勢やそれを踏まえた大学の方針、学生の理解度や意向などにより、変更することがあります。

そうしたことが起きる際の基本的な方針として、変更に伴う受講生への不利益を可能な限り避けるため、①受講生には事前にできるだけ早く変更を知らせる、②受講生の負担を理不尽に増やさない、ことを明確にしておきます。

【オフィスアワー・教員との連絡方法】

毎週火曜日2講時をオフィスアワーとしています。その他、事前にアポイントメントで相談時間を設けます。

資料配布や授業関連の連絡にはManaba、LINE(オープンチャット)とメールを使います。

これらのいずれかから連絡を受け取れるようにしておいてください。

教員のメールアドレスは a17248@mail.ryukoku.ac.jp です。

<講義概要・到達目標>

【講義概要】

\*\*\*\* 重要 \*\*\*\*

この授業はオンラインの回と対面の回が混じるユニークな形式です。

15回のうち10回がオンライン(オンデマンド)の講義形式、5回が対面のグループディスカッション中心の授業になります。

対面の授業日は予め決まっています(下記「講義方法」参照)ので、必ず参加するようスケジュールしてください。

\*\*\*\*\*

あなたにとって「コミュニティ」とは大事なものですか？それとも厄介なものですか？

この講義では、

- ・「コミュニティ」にまつわるさまざまな概念や理論、コミュニティをめぐる諸課題を学び、
- ・大学周辺の地域「コミュニティ」について調べ、学んだ概念・理論を適用してその理解を深め、
- ・これらの学習を通じて、今の時代に「コミュニティ」なるものがなぜ重要であると同時に厄介な存在であるのか考察し、
- ・私たちは「コミュニティ」とどう生きていくべきなのかを考えていきます。

授業は指定テキストを読み進めながら展開し、教員の研究テーマで農業と福祉をつなぎコミュニティをつくる「農福連携」についてもとりあげます。

この授業には、教員のほか、アシスタントやボランティア、学内外のゲストが参加し、さまざまな形で受講生の皆さんの理解を促すよう働きかけてくれます。様々な人たちとのかかわりながら、積極的な学びの「コミュニティ」としての授業を自分たちで創り上げるつもりで授業に参加してください。

**【到達目標】**

- ・コミュニティに関して多様な概念や用語があり、そのうち基礎的なものを理解し、現実社会の理解に応用できる。
- ・なぜ「コミュニティ」が重視されるのか、批判的に理解し、自分の生き方に生かす心構えをもつ
- ・他の受講生やボランティア、自分のコミュニティの人々と協力し働く姿勢とスキルを身につける

**【講義方法】**

\*\*\*\* 重要 \*\*\*\*

対面の授業日は①9月19日、②10月17日、③11月7日、④12月5日、⑤1月9日です。これらの日には教室で授業に参加し、教科書やオンライン講義の内容についてグループで議論したり、課題をこなしてもらいます。

対面授業日以外はオンライン講義で火曜日4講時に配信します。講義録画はオンデマンドで視聴できます。

配信終了後1週間以内に、学んだことを要約してManabaに「リフレクションノート」として記入する課題があるほか、クイズ(小テスト)に答えてもらうことがあります。

**<授業スケジュール>**

回	月日	テーマ・キーワード
1	9月19日	(対面)ガイダンス
2	9月26日	(オンライン)テキスト「はじめに・第1章、第2章 日本人の幸福感」 【キーワード】コミュニティ、概念、幸せ
3	10月3日	(オンライン)テキスト「第3章 利他行動とボランティア」 【キーワード】幸福感、信頼
4	10月10日	(オンライン)テキスト「第4章 ウチ・ソト文化」 【キーワード】ボランティア、ウチとソト
5	10月17日	(対面)グループワーク「シニアの地域ボランティア レイカディア大学の活動について」 【キーワード】ボランティア、ウチとソト
6	10月24日	(オンライン)テキスト「第5章 地域コミュニティ」 【キーワード】地域コミュニティ
7	10月31日	(オンライン)テキスト「第6章 子ども・若者の居場所」 【キーワード】子ども、若者、居場所
8	11月7日	(対面)グループワーク「子供・若者の居場所について」 【キーワード】子ども、若者、居場所
9	11月14日	(オンライン)テキスト「第7章 インターネットとコミュニティ、第8章 LGBT」 【キーワード】インターネットネットコミュニティ、当事者、LGBT
10	11月21日	(オンライン)テキスト「第9章 社会的包摂」 【キーワード】社会的包摂・排除
11	11月28日	(オンライン)テキスト「第10章 コミュニティと排除」 【キーワード】社会的包摂・排除
12	12月5日	(対面)グループワーク「社会的包摂と排除するコミュニティ」 【キーワード】社会的包摂・排除
13	12月12日	(オンライン)テキスト「第11章 コミュニティづくり」 【キーワード】コミュニティづくり

14	12月19日	(オンライン)農福連携について 【キーワード】農福連携
15	1月9日	(対面)グループワーク「コミュニティづくりと農福連携について」 【キーワード】コミュニティづくり、農福連携
<p><b>&lt;教科書・参考書&gt;</b></p> <p><b>【参考文献】</b>  吉田行郷・里見喜久夫・季刊『コトノネ』編集部 『農福連携が農業と地域をおもしろくする』（株式会社コトノネ生活）（ISBN:9784907140）  指定テキストに加えて、別途関連文献資料を読んでもらうことがあります。</p> <p><b>【テキスト】</b>  桜井政成 『コミュニティの幸福論—助け合うことの社会学—』（明石書店）（ISBN:9784750350899）  指定テキストは学期を通じて読んでもらいますので、必ず購入してください。</p>		